

議 平生町  
**議会だより**

第 106 号

2008年1月25日

発行 平生町議会  
 〒742-1195  
 山口県熊毛郡平生町大字平生町 210-1  
 TEL 0820-56-7110 FAX 0820-56-7109  
 発行責任者 田中 稔  
 編集 議会広報広聴調査特別委員会



次世代を担う元気な若者たち（1月13日 平生町成人式）

**12月**  
**議会報告**  
**いっぱい質問**

**平成19年度補正予算**

**2ページ**

**委員会審査報告**

**3ページ**

**いっぱい質問**

**4ページ**

**研修報告**

**10ページ**



# 「安全安心 元気なまちづくり」を テーマに行政展開を図る

12月定例町議会は12月13日から20日までの8日間の日程で開かれました。  
議案は、補正予算7件、条例5件、事件8件の合計20件でした。議案は全て全会一致、または賛成多数で可決されました。  
一般質問は6人が登壇し町政の諸課題の取り組みについて質しました。

## 平成19年度補正予算

町長は行政報告の中で今年度当初から「安全・安心・元気なまちづくり」をテーマに協働のまちづくりで行政展開を図ってきたと述べました。  
今回の12月補正予算は平成19年度の人事院勧告に基づく給与改定によるものや各種事業の確定見込によるものが主なものです。  
平成19年度一般会計は1662万円追加補正し、予算総額が47億5593万円となります。

### 主な歳入

- ▽民生費負担金(保育料) 121万円減額
- ▽電力移出県等交付金 248万円増額
- ▽財政基金繰入金 744万円増額

### 主な歳出

- ▽選挙費 218万円減額
- ▽保育所運営費 1104万円増額
- ▽砂防費 300万円増額
- ▽住宅管理費 175万円増額

特別会計では6会計で

7886万円減額補正し、予算総額50億4283万円となりました。主なものは次の通りです。

- ▽国民健康保険事業勘定特別会計では療養諸費 5690万円減額 高額療養費 800万円減額
- ▽下水道事業特別会計では公共下水道事業費 565万円増額
- ▽漁業集落環境整備事業特別会計では漁業集落排水施設整備事業 1200万円増額

## 選挙管理委員 及び補充員の選挙

平生町選挙管理委員会委員の任期が平成20年1月23日に満了となるため、地方自治法の規定による選挙が行われ、次の

方々が選出されました。  
選挙管理委員会は、選挙の管理と執行を公正に行うための組織です。  
そのほか、選挙の啓発活動や、選挙人名簿の調製なども行っています。  
定例会が年4回開かれ必要に応じて臨時会が開かれます。

委員会は4人で組織され、任期は4年です。欠員が生じた場合、補充員から選出、その順序は選挙時に決定します。

### 選挙管理委員

- 武内尊徳さん(高須)
- 藏田義通さん(南下)
- 中本安生さん(奥下)
- 菊本哲夫さん(浜田)

### 補充員

- 1、橋本成文さん(小山)
  - 2、山本幸弘さん(上殿)
  - 3、河内和子さん(喜多)
  - 4、増本俊枝さん(やぶ)
- ※補充員の氏名の上の数字は補充の順位です。



# 委員会審査報告

## 総務厚生常任委員会

総務厚生常任委員会は12月17日に開かれ、本会議から付託された案件の審議を行い、すべて全会一致で承認されました。

### 補正予算

**質** 歳入の電力移出県等交付金は今後も継続するのか。

**答** 今年度から新たに交付されるもので、使途については一定の制限がある。今後少なくとも2カ年は継続される。

**質** 保育料の減額の理由は何か。

**答** 入所児童は増加しているが、保育料の低い階層の世帯が増えたためである。

**質** 介護保険事業の介護予防サービス等諸費の今後の動向はどうか。

**答** 介護予防を目的とし平成18年度の制度改正で創設されたもの。今後効果を上げていきたい。

### 条例

**質** 徴収対策室設置に対し、税外収入金の現年度分と滞納分の調整は、

**答** 税外収入金を扱う担当課で安易に考えることのないよう、実効性のある方法を今後協議していく。

**質** 徴収対策室の業務が特殊であることを考慮し別室で執務してはどうか。

**答** 併任徴収制度、現年分・滞納分の考え方から税務課に隣設することが望ましい。

### 討論

徴収対策室設置に対して、次のような条件を付けた賛成討論が行われました。

- ・集中改革プランや機構改革案など全体的な目標を明らかにすること。
- ・議会への説明を十分にすること。
- ・町の将来像を早期に表明すること。



軒下の補修が必要な町営住宅

## 産業文教常任委員会

産業文教常任委員会は、12月18日に開かれ、本会議から付託された案件の審議を行い、すべて全会一致で承認されました。

### 補正予算

**質** 土木費の住宅管理費の修繕料はどこに對するものか。

**答** 磯崎団地1戸分と田名第2団地及び中村団地の軒下コンクリートの補修である。

**質** 小学校費の佐賀小学校法面改修は具体的にどこか。

**答** グランド西側の法面

改修である。

**質** 漁業集落環境整備事業の工事箇所はどこか。

**答** 東魚見、名切、伊保木である。

**質** 漁業集落環境整備事業はいつ終了するのか。

**答** 幹線の管渠敷設については今年度で終了し、次年度以降は補填的に公共マスを設置する程度となる。

### 条例

**質** 簡易水道給水条例の改定で収入増が見込めるのか。

**答** 今回の改定は料金体系の変更で、収入増は見込めない。

### 事件

**質** 町営住宅明渡訴訟の提起について、今後訴訟の必要がないように入居時に条件付けができないか。

**答** 今回は火災による特定入居者が入居者が住宅内に家財を残したまま不在となったため、訴訟により処分することにした。

今後費用がかからない方法を検討したい。



吉國 茂 議員

# いっぱん質問

## 行政改革の取り組みを問う 第四次の行革大綱をベースにして

質問

平生町職員の窓口対応は、他市町村に比べよくできている。

しかし、現状に満足することなく、行政改革を推進しなければいけない。

1. 現在の行政改革の取り組み状況はどうなっているか。

2. 改革の基になる、住民ニーズを含むさまざまなデータは分析されているか。  
どのようなコンセプトで推進しているか。

3. 取り組みの中心的職員の研修状況はどうか。

4. 現在までの取組過程での課題や問題点はないか。  
5. 今後のスケジュールはどうか。  
以上5点を問う。

答弁 町長  
1. 基本的には、第四次の行革大綱をベースにして平成21年度を目標

に行革を進めている。  
2. 基本的なコンセプトは、安全で安心なまちづくり、協働のまちづくりがテーマになっており緊急行政改革プログラムで示したように行政の簡素効率化、組織機構の簡素効率化、定員管理の適正化及び給与制度の見直し、財政の健全化対策、この4本柱を基本に取り組みたい。

質問

## 安心安全のまちづくりを問う

## 地域防災計画に基づいて対応

5. 改革案については各課の意見聴取した上で、素案を作成し、改革案の方向づけが出来れば目標を持って精力的に進めていきたい。

4. 現状の課題、問題点を含めて、将来を見通した中で、住民のニーズを踏まえながら、どのような組織体制にしていくか、大きな課題である。

答弁 町長

1. 防災体制については、平生町地域防災計画が策定されており、これに基づいて対応していく。

2. 災害の種類や程度に応じて防災体制を警戒体制から非常体制、さらに町長を本部長とする災害対策本部を設置する。  
3. 指定管理者の関係では、特に老人福祉セ

行以後、各施設の緊急対応システムは確立し、また機能しているか。  
4. 問題点・課題は把握できているか。  
5. 今後の方向性は、  
ンター、第2デイスター、第2デイスター、福祉作業所などで消防の組織システム、連絡体制など整えており、訓練も実施している。  
4. 保育園や児童館などについても緊急時体制はとられているが、問題は低年齢の子どもたちが対象となるので毎年避難訓練を実施している。しっかりと落ち着いて行動させるのが大きな課題である。  
5. 災害の大規模化の対応だが、広域的な支援要請のケースを想定した訓練も今後は大きな課題として取り組む必要がある。



備えあれば憂いなし (平生町地域防災計画書)



奥上正博 議員

質 全国学力テストについて問う  
答 子どもの序列化は考えていない

質問

文部科学省は、10月24日に今年4月に実施した全国学力テストの結果を公表した。

山口県内の各市町の教育委員会は、「過度の競争を招く」などを理由に公表しないとされている。しかし、数値が出された以上その数値が独り歩きすることが懸念される。

また、文部科学省は、調査結果を学習指導要領改訂の参考にするため、さらに、継続的なデータ集約をする必要があるとして来年度以降も全国学力テストを続ける考えも示している。平生町の教育委員会として、この全国学力テストに対してどういう考えで対応していくのか。

答弁 教育長

何十年ぶりに大規模な全国学力テストが実施された。全国ほとんどの学校が参加している。このテストの実施は、時代の要請に応え、子どもたちの教育をどうしていくかという大きな目的がある。

最近よく学力低下と言われているが、今後の指導要領を考えていくうえで、の大きな目的がある。また平生町においても教育の現状が、全国的にどうなっているか、教育委員会できつかわる必要を考慮して参加した。子どもの序列化や、過度な競争にならないよう考えている。

来年度以降の実施では今年度の反省を踏まえて教育委員会として十分生かして取り組むたい。

質 小規模工事等契約希望登録制度の導入を

答 公平公正な立場から真摯に検討する

質問

平生町においては小規模の業者が非常に多いと認識をされており、現時点では仕事の減少も歯止めなく続いていると思える。

町内の小規模業者に仕事を回すということは、地域経済の活性化に大きな役割を果たすと考えられる。

町が発注する小規模な修繕については、地域密着型、仕事おこしや支援策のために小規模工事等契約希望登録制度という制度がある。この制度の実施自治体

答弁 町長

小規模業者の発注機会の拡大を図ろうと、制度がつくられているところもあるが、当町では仮に50万円未満を小規模事業とすると、年間で見ると3割程度が小規模事業と

は、全国の約1800自治体の約2割、355自治体となっている。当町においても導入をすべきだと思うが、町長の考えは。

現在では指名業者でなくとも、小さな工事、修繕をお願いしているケースもある。現実に町内では指名業者の方も仕事が減り大変な状況が続いている。小規模業者の場合も厳しいと指摘されたが、公平公正の立場から真摯に検討していかなければいけない課題だろうと思っている。



修理中の町営住宅





細田留美子 議員

質 聴覚障害者のための施策を

答 要援護者支援マニュアルを作成する

質問

聴覚障害者が地域社会に参加、参画するための施策はどうか。

現状と課題、今後の方向性について問う。

答弁 町長

社協、ボランティア協議会などの支援活動の輪を広げていけるように支援のバックアップ体制を考えている。

再質問

1. コミュニケーション支援事業の柱となる要約筆記奉仕員の町内での養成は考えられないか。

2. 災害時の対応はどうか。

3. 軽・中度の難聴者への対応はどう考えているか。

再答弁 町長

1. 今年度は手話奉仕員の養成講座に1名派遣



「耳マーク」を新しく設置しました（健康福祉課）

再々質問

外見からわかりにくい聴覚障害者は隠したいという本人の気持ちや個人情報保護の面からも災害時の対応がむずかしいと思われる。

要援護者マニュアルの対策はどうするのか。

再々答弁 総務課長

要援護者支援に配慮した個別ごとに計画を立てていく。

2. 災害時の要援護者支援マニュアルの策定を行い、対応策を示していく。

3. 耳マークの設置や手話通訳の奉仕員もいるので積極的な働きかけをしていく。

質 家庭での学習状況調査の結果をどう生かす

答 地域、保護者、学校へ発信していく

質問

全国学力テストの結果と、同時に行なわれた家庭での学習状況の調査の結果をどう分析しているか。

この結果を教育行政にどう生かしていくのか。

答弁 教育長

学力の実態の分析と、これをどう生かしていくか。

再質問

これらのデータを広く知らせることで学校や保護者、地域を含めて教育環境の整備が期待できる。

学校と保護者と地域が一体になれるような取り組みをどう考えているか。

再答弁 教育長

子どものために何がいかと話し合うこと。地域に発信、保護者に発信、学校に発信というのが我々の使命と思っている。



河藤泰明 議員

**質** めくもりある平生町の安心安全は

**答** 自主防災組織が実践的訓練を実施

**質問** 災害対策について、この半年間で強化された点を問う。

**答弁** 町長

平成19年11月に職員参加訓練を、地震が発生して自動車が行き止まない山間部に負傷者が取り残されているという想定のもと、機動性のあるバイクを活用した訓練も含めて実施した。  
また自主防災組織が実践的な訓練の取り組みを

している。

**再質問**

オフロード二輪車の導入は、車で行くには困難な場所へ迅速に物資を届け、また救助にも向かえ、不安が解消できるが、海上は対応できない。佐合島の方も安心できるような対策はされているのか。

**再答弁** 総務課長

地元で対応できるような体制の整備、実際の訓練などを行っている。また島に在住の、保健師資格者にアイランドヘルパーという形で委嘱し、体制を整えている。



**質** 「協働」のまちづくりを問う

**答** 地域住民と力を合わせる事が基本

**質問**

「協働のまちづくり」について、この言葉の意味と目的を問う。

**答弁** 町長

行政と地域住民が一緒に力を合わせてまちづくりを進めていくというのが基本と思っている。住民の充実感、満足感で、評価していく。

**再質問**

ボランティアの方々のあたたかい気持ちと協力で成り立っている町の行事がたくさんあることを再認識すべきである。

また「ボランティアの人は好きでやりよってんじゃけえ」というような発言はないか。

**再答弁** 町長

そのようなことは聞いていない。

**要望**

「うんちく5%、行動95%」で町民のため、めくもりある平生町の実現を目指して実行していただきたい。



ボランティアに支えられたファミリースポーツレクリエーション大会



岩本ひろ子 議員

**質** 市町合併の進ちよくは  
**答** 郡内で歩調を合わせて対応する

質問

一市三町の合併ができなかったのはどこに問題があったのか。

また合併が行き詰まって以来町長として何らかの動きをし、どこまで進んでいるのか。

また平生町をどの様にしようと考えているか。

答弁 町長

時間的な制約の中で、いろんな経緯があったが、みんながまとまっていくということについてのお互いの共通の認識が不十分だったのでないかと受けとめている。

地方分権の受け皿論も今後出てくると思う。

そのためには人口など、基盤がある程度まとまった基礎的な自治体が議論されてくる。

熊毛郡内の連携を密にし歩調をあわせ対応していけるよう努力する。

再質問

他町との合併は現時点ではできないと思われる。

当町は立地条件をいかし個性あるまちをつくり、

また併行して財政面では広域連合で事務処理するなどとは考えられないか。

再答弁 町長

各市町の状況があるのでもしつかり行財政改革もやりながら、個性豊かな町づくりに取り組んでいく。

道州制も含めてこの国のあり方、県のあり方など次を展望していく。

目標を持ちながら、足並みを揃えて広域行政の実績を積み上げていくことが、今我々に課せられた課題だと思っている。

要望

魅力あるまちづくりも町長の考えしだい、町民のためにリーダーシップを発揮されたい。

**質** 町財政の考え方を問う

**答** 現況を分析し対応する

質問

財政力指数は年々悪化の一途をたどり、地方債の残高も特別会計を合わせると18年度末で135億円、これは町民一人当たり約100万円になる。そこで経常収支改善策として、最善の策は企業誘致だと考えられるが、阿多田への企業誘致はどう画策していくのか。

- 1. 委託契約の見直し
- 2. ソフト設計の共用化
- 3. 人事考課制度の導入
- 4. 人員の効率化
- 5. 民間への移管について町長の考えを聞く。

答弁 町長

県の企業立地推進室等と連携をとりながら、PRを含めて誘致活動に取り組んでいる。

1. 契約については、単独年度でやっていくことが基本であるが、現況をしつかり分析しながら対応していきたい。

2. 窓口申請等の電子申請システムは、既に全県下で取り組んでいる。この問題についてはIT推進本部で検討しながら対応する。

3. 今まだ導入していないが、関係団体と十分調整を図っていく。

4. システムだけでは対応できない部分もあるが、やれるところは、取り組みを進めている。

5. 検討委員会を設置して、総合的に検討をしている。

再質問

企業誘致、観光事業の振興策も急がれる。来年度の予算編成方針は。

再答弁 町長

企業誘致については、全力を挙げて取り組んでいく。

観光振興については、民間の活力が生かしているよう取り組んでいる。大変厳しい財政状況を踏まえ、来年度の予算編成にあたりたい。







平岡正一 議員

質問 合併をめざした町政運営に方向転換を

答 機運を上げていきたい

合併新法の期限が2年余りになり、新法の期限内での取り組みが必要になっていとなると考える。現在、町の基本方針は「持続可能な町財政基盤の確立」となっており、合併への取り組みの方向にない。また必要な取り組みもされていない。地方分権の受け皿として合併への取り組みは重要な課題であり、期限内にすすめるべきだ。

県の合併方針は尊重しながらも、当面熊毛郡内3町の合併に取り進む方向を明らかにし、町政の基本方向を合併と整合性のある運営にすべきと思うがどうか。

合併 町長

合併新法の期限内といえれば逆算しても残りはない。全力を上げて取り組んでいきたい。熊毛郡内で足並みをそろえて対応できるように、機会があるごとに話しているが、圏域を含めて温度差があることも事実である。それぞれ各町・市の実状というものもあり、これを踏まえながら何とか機運を上げるべく努力していく。

プラスチック・ビニール類の焼却処分を中止してリサイクルをすることは「容器包装リサイクル法」で定められており、自治体としても責任ある対応が求められている。

最近の他自治体の状況を見るとあまりにも分別が多くなり混乱もあるようだ。住民がしっかりと協力出来る取り組みが必要である。当面、熊南総合事務組

質問



リサイクルのしくみ (環境省ホームページより)

質問 プラスチック・ビニールのリサイクルを 施設のあり方について検討

現在修繕で延命化を図っているところだが、施設のあり方について、十分指示をして、検討するようにしたい。

分別収集、保管、業者への引き渡しをどのようにしていくのか、いろいろな問題があるが、私の方からも指示をしていきたい。広域化については、県が平成20年度までのごみ処理の広域化計画を策定しているが、15年の耐用年数でいくと平成26年ということになる。

合併 町長

分別収集については、担当者レベルで柳井と熊毛郡内で検討が行われている。焼却処分をするにあたっては柳井の施設の耐用年数も考慮し、さらなる広域化を進め、発電などでエネルギーを回収すべきと思うがどうか。

# 研修報告

## 時代に合った広報づくりを学ぶ

熊毛郡議会広報連絡協議会研修会が10月12日、田布施町役場で開催されました。

長野県白馬村と栃木県市貝町の議会だよりを参考資料に意見交換しました。

また、熊毛郡3町の各議会だよりについても活発に質疑応答や意見交換が行われました。

各町とも、それぞれに特徴があり、今後の議会だより作製の参考に、より身近で分かりやすい広報誌づくりに取り組んでいきたいと思えます。

また、町議会広報研修会が11月22日、山口市のセントコア山口で開催されました。

株式会社コア取締役部長の浜田泰氏から「新しい時代の広報のあり方について」と題した講演を聞きました。

「デジタル時代の到来」



に「ネット環境の充実と普及」など、目まぐるしく進化していく時代の広報戦略について大変刺激の多い内容でした。

町議会実務研修会が11月22日、山口市のセントコア山口で開催されました。講師は市町村アカデミー客員教授の大塚康男氏から「地方議会の危機管理術」と題した講演を聞きました。議会におけ

るコンプライアンス（法令順守）として議員としての役割を再度見つめ直し、今後活動していくための研修を受けました。皆様の声を行政に反映すべく、一層の努力をしていきます。

## 地方議会の危機管理術を研修

### 原稿募集

議会のこと、我が町の自慢、つれづれに想うこと何でも結構です。

字数 400字以内  
締切日 平成20年3月31日  
提出先 平生町役場議会事務局  
議会広報担当者係

紙面の都合で一部変更することもあります。ご了承願います。掲載文には薄謝を差しあげます。

## 議会の動き

(H19・9/13～12/12)

- 平成19年9月13日～26日 第5回定例議会
- 9月13日 議会運営委員会
- 9月14日 議会広報広聴調査特別委員会
- 9月26日 議会運営委員会
- 9月26日 議会全員協議会
- 10月1日 議会広報広聴調査特別委員会
- 10月5日 山口県町指導者研修会
- 10月9日 議会広報広聴調査特別委員会
- 10月12日 郡議会広報連絡協議会研修会
- 10月17日 議会運営委員会
- 10月18日 議会広報広聴調査特別委員会
- 10月29日 第6回臨時議会
- 11月21日 議会全員協議会
- 11月21日 産業文教常任委員会
- 11月22日 町議会実務研修会
- 11月26日 町議会広報研修会
- 11月27日 総務厚生常任委員会
- 11月27日 議会運営委員会
- 12月5日 議会全員協議会

## 編集後記

▼新年あけましておめでとうございます。

今年の初日の出は年末の予想に反して、早朝の澄んだ空気の中、まばゆい程の太陽が顔を見せ、今年一年を明るく照らしてくれるようにも見えました。

▼昨年は食品の偽装事件が続発し、「偽」が一年を象徴する字になりました。

新しい年2008年の平生町は「人間を大切にする年」にしていきたいと思えます。

▼議会では今回から町長の行政報告に対する、質疑を行いました。活発な質疑が行われました。

▼今年一年、広報委員一同、わかりやすい、読みやすい議会だよりを目指して頑張っていきたいと思えます。

今年もどうぞよろしくお願いたします。

洲上正博